

群 教 七	G10 - 01
	平29.265集
	道徳

互いに認め合い道徳的实践意欲を 高める児童の育成

—対話的な学びとなる話し合い活動の工夫を通して—

特別研修員 田中 博信

I 研究テーマ設定の理由

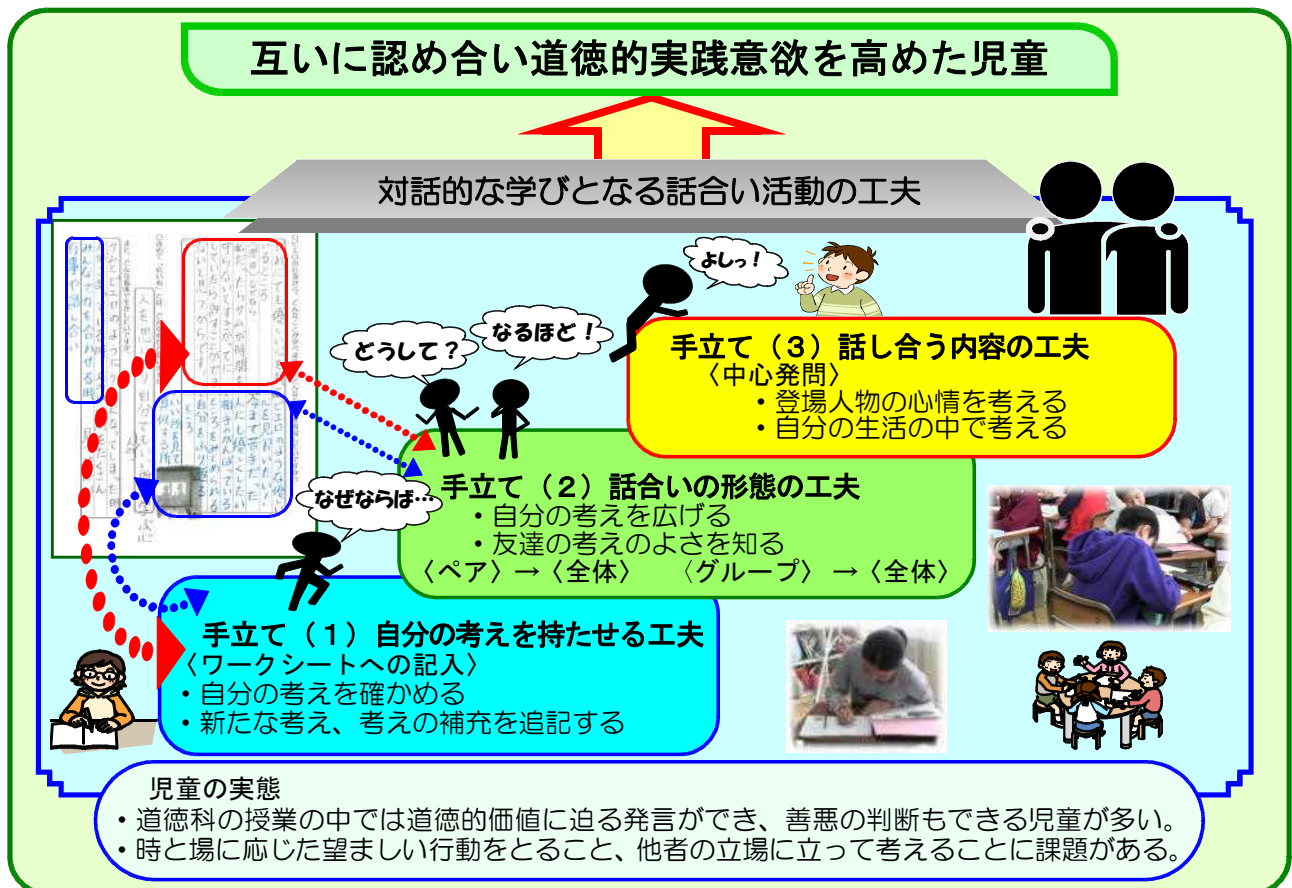
小学校学習指導要領解説では、道徳科に生かす指導方法の工夫として、「話し合いは、児童相互の考えを深める中心的な学習活動であり、道徳科においても重要な役割を果たす」と示されており、ねらいを達成するために、目的に応じた効果的な話し合いが行われることを重視している。また、群馬県教育委員会から示されている平成29年度学校教育の指針においては、道徳的価値に向き合い、多様な考え方や感じ方に触れられるように話し合うことが大切であるとされている。

本学級の児童は、道徳科の授業の中では道徳的価値に迫る発言ができ、善悪の判断もできる児童が多い。しかし、日常の生活の中では、時と場に応じた望ましい行動を取ったり、他者の立場に立って考えたりすることに課題がある。

そこで、様々な学校生活での体験と関連付けて道徳科の授業を展開する中で、対話的な学びとなるようなペアやグループでの交流後、学級全体で話し合うような活動を工夫して、自他の考えを比較しながら自分のよさや課題に気づき、それを互いに認め合い、深めた道徳的価値を実践しようとする意欲を持たせることが必要であると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

対話的な学びとなる話し合い活動の工夫を行うため、以下の三つの手立てを考えた。

手立て (1) 自分の考えを持たせる工夫

(ワークシートへの記入「自分の考えを確かめる」「新たな考え、考えの補充を追記する」)

手立て (2) 話し合いの形態の工夫

(○「ペア」→「全体」での話し合い ○「グループ」→「全体」での話し合い)

手立て (3) 話し合う内容の工夫 (中心発問「登場人物の心情を考える」、「自分の生活の中で考える」)

手立て (1) について

自分の考えを持たせるために、発問に対する自分の考えを記し、自他の考えのよさや自分の心の変容を振り返ることができるワークシートを活用していく。このワークシートには、話し合いで気付いた友達の考えのよさや、新たに生まれた考えも追記させていく。

手立て (2) について

学級全体で交流する前に次のような形態で話し合うことを考えた。

○「ペア」から「全体」での話し合い

「ペア」で話し合う時間を設け、自他の考えの根拠に着目し、友達の考えのよさや自分の考えを明らかにし、全体での話し合いの前に自信を持たせる。その際、根拠を意識して自分の考えを伝えたり（「なぜならば、」）友達の考えを聞いたり（「どうして」）できるようにする。

○「グループ」から「全体」での話し合い

ペアでの話し合いで自信を持って考えを伝え合うことができるようになったところで、初めから話し合う人数を増やし、「グループ（3人または4人）」から学級全体での話し合いをする。より広い視野で自分の考えを振り返り、考えを広げたり深めたりできるようにする。

手立て (3) について

話し合う内容は、中心発問を考える場面で「資料の登場人物の心情を考える内容」あるいは「自分の生活の中で道徳的価値を考える内容」とする。資料の中で道徳的価値を考える際に多様な考えに触れたり、自分の経験を基に道徳的価値を捉えたりすることで、対話的な学びとなる話し合いができ、互いに認め合いながら道徳的実践意欲が高められると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- ワークシートに自分の考えや考えの補充を追記させることは、児童が考えを表現することに慣れ、自分の考えや友達の考えのよさを確認することができるので、自分の考えを持たせることに有効であった。
- 自分の考えを持たせた後、話し合いの形態を工夫することで、友だちに自分の考えを確実に伝え合う必要感が生じ、友達の考えと比較しながら自分の考え方を広げたり深めたりできた。
- 自分の考えを持たせ、話し合いの形態や話し合う内容を工夫し、対話的な学びとなる話し合い活動を積み重ねていくことは、多面的に自分を見つめ直すことができ、互いに認め合い、道徳的実践意欲を高める上で有効であった。

2 課題

- ペアやグループでの話し合いを受けて学級全体で話し合い、自分との関わりで道徳的価値を捉えたり道徳的実践意欲を高めたりするためには、それぞれの段階の話し合いでしっかり時間を確保しなければならない。資料をあらかじめ読ませておいたり、中心発問に関わる補助発問を精選したりするなど、時間配分を考えていく必要がある。

実践例

- 1 主題名 謙虚に広い心を持って 内容項目B-(11) 相互理解、寛容
資料名 ブランコ乗りとピエロ (出典 「私たちの道徳5・6年」文部科学省)

2 主題及び本時について

(1) 価値観

本主題は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の内容項目B「主として人との関わりに関すること」の相互理解、寛容「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する」という価値をねらうものである。今回扱う相互理解、寛容は、自分とは異なる意見や立場を持つ者同士がより良い人間関係を築く上で、重要な要素の一つと考える。児童は、活動範囲の広がりによって人間関係が複雑になり、人と関わる喜びと同時に悩みも増えてくる中において、このような悩みを解決できるようにするためにも、広い心を持ち、自他を認め合い尊重し合える人間関係を築いていこうとする意欲を持たせたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに、いろいろな行事で学級の目標を立て、目標達成に向けて協力しながら取り組んできた。特に、9月末に行われた運動会では、運動会の成功を目標に、本気で練習や準備をしてきた。そんな中、児童の気持ちが向上するにつれて、応援の仕方やリレーの順番について話し合う中で、時に言い争いになってしまうことがあった。しかし、最終的には互いの力を合わせて運動会を成功させることができたので、本時では、友達同士が互いに広い心を持って建設的に話し合い、より良いものを築いたり、互いのよさを認め合ったりしたこの経験を想起させながら、相互理解、寛容についての価値の理解や実践意欲を高めることにつなげたい。

(3) 資料観

本資料「ブランコ乗りとピエロ」は、サーカスのリーダーであるピエロが、自己中心的な振る舞いをするブランコ乗りのサムに一方的に腹を立てていたが、誰よりも真摯に演技に向き合っているサムの姿に接し、自分自身を振り返り、広い心と謙虚さを取り戻して、互いの心を通い合わせる話である。

ピエロの心や行動の変容を自分と他者との関わりと重ねて考えることで、児童に、他者に広い心で接して、自分と異なる立場や考えを受け入れることの大切さについて深く考えさせたい。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時では、主人公のピエロが自己中心的な振る舞いをするサムを許すことができたことを考えた後、ピエロの行為から学べることを自分の生活と照らし合わせながら考えた。自分の考えについては、ワークシートに記入し、それを基にグループで話し合い、友達の考えを認めながら自分の考えを再確認した。それを受けて全体で交流し、自分の考えを更に広げたり深めたりするようにした。その際、考えの補充や追加をワークシートに追記させ、いつでも考えを振り返ることができるようにした。

手立て(1) 自分の考えを持たせる工夫(ワークシートへの記入)

ピエロの行為から学べることを自分の生活と照らし合わせながら考える際、最初に自分の考えを記述欄の上段に記入する。後の話し合いで自他の根拠が明確に伝わるように、「なぜならば」や「理由は」という接続の言葉を用いて理由を記入する。その後、話し合う中で、新たに考えたことや考えの補充があった場合は、記述欄の下段に青鉛筆で追記し、考えたことがいつでも振り返ることができるようにする。

手立て(2) 話し合いの形態の工夫(グループ(3人または4人)→全体)

自分の考えが持てた後に、グループの話し合いを設ける。ペアで話し合うことに慣れてきたので、人数を増やし、自分とは違う考えを知ったり、自分の考えに自信を持ったりできるようにする。次に、全体での話し合いを設け、より多くの考えを知り、比較しながら自分の考えが自覚できる対話的な学びとなるように話し合う。

手立て(3) 話し合う内容の工夫(中心発問)

中心発問を「ピエロの行為から学べることはどんなことか」とし、児童が今までの経験や自分の生活と重ね合わせながら考えることができるようにする。多様な考えに触れながら対話的学びとなる話し合いを設定し、自分の生活に生かそうとする意欲を持たせる。

4 授業の実際

【事前】資料内容を把握する

あらかじめ児童に資料を配布し、感想の視点（「腹が立つ!」「あれっ!」「どうしよう…」）を基に読ませ、内容の大体を把握させた。

【導入】授業前の「広い心」についての捉えを確認する

互いの意見を認め合いながら運動会や修学旅行を成功させてきたことを想起させ、価値への方向付けを行った。その後、「広い心とはどんな心か」を問い、授業開始直後の「広い心」の捉えを確認した。

〈授業開始直後の「広い心」の捉え〉

- S1：思いやりの心
- S2：みんなに優しくできる心
- S3：優しい心
- S4：優しい心

【展開前半】資料の主人公の気持ちを考える

「時間が過ぎても演技を続けるサムを見て、ピエロはどんな思いだっただろう」と「そんなピエロが、どうしてサムを許すことができたのだろう」の二つの発問から、サムの自分勝手さに腹を立てていたピエロが、サーカス団のために頑張っていたサムに気付いたり、ピエロ自身にも身勝手さがあつたことに反省したりしながらサムへの気持ちを変えていったことを押さえた。

T：そんなピエロが、どうしてサムを許すことができたのだろう。

S1：演技を終えたばかりのサムが疲れ果てていたのを見て、サムをにくむ気持ちが消えてしまったからです。

S2：サムががんばっている姿を見て、自分もがんばらなければと思ったからです。

S3：サムがサーカス団のために一生懸命がんばっていて、自分もがんばらなくてはいけないと思ったからです。

S4：一生懸命演技をしたサムが疲れ果てているところを何度も思い出そううちに、自分も目立とうとしていたことに気付いたからです。

【展開後半】資料の主人公の行為から学べることを考える

手立て (3) 話し合う内容の工夫

中心発問「ピエロの行為からどんなことが学べますか」

児童が道徳的価値を今までの経験や自分の生活と重ね合わせながら考えるような内容とした。

手立て (1) 自分の考えを持たせる工夫（ワークシート）

自分の考えをワークシートの上段(図1)に記すようにした。運動会や修学旅行といった大きな行事の直後であったため、友達との関わりを想起しやすく、自分の考えが持ちやすかった。

手立て (2) 話し合いの形態の工夫（グループ→全体）

児童それぞれが自分の考えが持てた後、3、4人のグループで話し合いをした。話し合う際は、考えの根拠に着目することと、「それはこういうこと」や「どうして」と問い返ししながら話し合い、自他の考えをより明らかにするとともに、自分の考えを広げたり深めたりできるように指示をした。

全員が違う考えのグループでは話し合いが活発になり、ワークシートへの追記もたくさんされていた(図1)。一方、自分の考えと似た考えが集まったグループは、伝え合うことはできたが、その後の話し合いを進めることが難しい様子だった。机間支援しながら「根拠の違いはないかな」と声掛けをし、考えを見つめ直すよう促した。

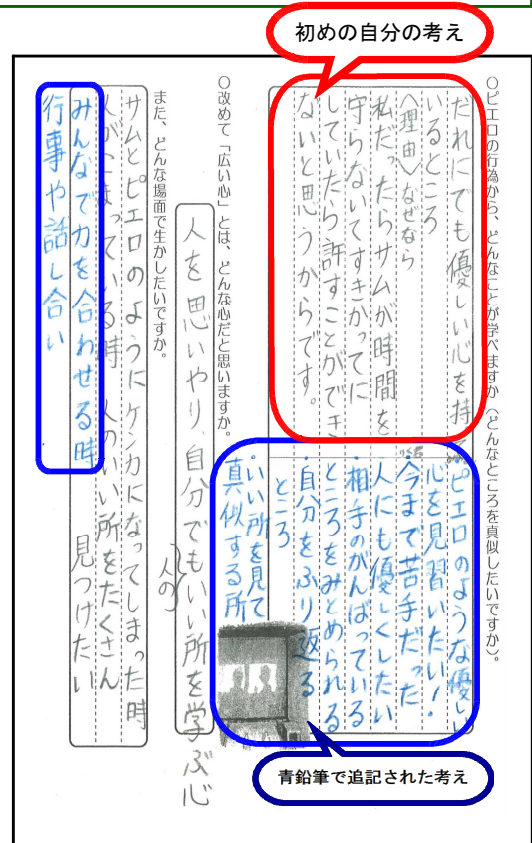


図1 追記したワークシート

最後に、全体での話し合いを行い、グループで考えたことについて共有化を図った(図2)。グループで話し合ったので、根拠がより充実した考えとなっていた。

また、全体での話し合いでも、ワークシートへの追記はされていた。しかし、グループでの話し合いがあったためか、根拠を問い返す質問は出ず、考えを伝え合う活動にとどまってしまったところがある。似た考えの児童に根拠を聞いてみたり、教師が言葉を置き換えて聞き返したりすれば、もう少し考えに深まりを持たせることができたのではないかと考える。

【終末】改めて「広い心」について考え、心の変容に気付かせる

授業の最後に、再度「広い心」について問い、「どんな場面で生かしたいか」考えさせた。授業前の捉えは広い心について単語で表している児童がほとんどであったが、自分の生活場面を想起しながら道徳的価値を考えたことによって、詳しく書き表していた。

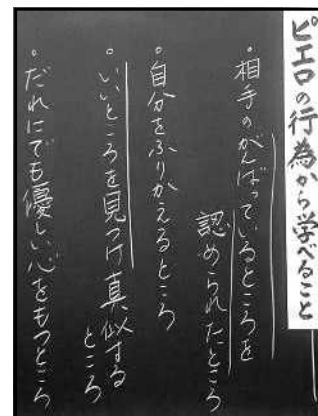


図2 共有化した考え

<p>〈授業開始直後の「広い心」の捉え〉</p> <p>S1：思いやりの心 S2：みんなに優しくできる心 S3：優しい心 S4：優しい心</p>	<p>〈終末での「広い心」の捉え〉</p> <p>S1：相手の良いところも悪いところも受け入れられる心。 S2：友達の良いところを見つけられる心 S3：だれにでも優しい心を持ち、相手のいいところを認められ、人の考えを理解することができる心 S4：人を思いやり、自分でも人のいいところを学ぶ心</p>
--	---

生かしたい場面についても、「みんなで力を合わせる時」や「大きな行事や話し合いのときに生かしたい」、人権学習月間で取り組んでいる思いやりの花を「たくさん咲かせたい」などと記している児童が多く、実際の生活で実践していこうとする意欲が感じられた。

5 考察

手立て(1)では、ワークシートに自分の考えとして「だれにでも優しい心を持っているところ」と記す児童が多かったが、話し合う中で「相手のがんばりを認めてあげるところ」や「相手の様子から自分のことを振り返るところ」と追記していた。全体での話し合いの際も、追記したことを根拠として発表する児童もあり、自分の考えを持たせる上で、ワークシートの活用は有効な手立てであった。

手立て(2)のグループでの話し合いは、根拠を問い返しながら進めていくことで、より自分の生活場面と関連付けて道徳的価値を考えることができた。しかし、全体での話し合いでは、考えの伝え合いにとどまってしまった。全体での話し合いの中でもワークシートへ追記している児童が多く、共有するという視点からは有意義な活動だったが、この主題については、最初から全体で話し合うようにした方が、多様な意見に触れながら考えが広げられたのではないかと考える。

手立て(3)では、児童が今までの経験や自分の生活と重ね合わせながら話し合いが進められた。また、最後の発問についてのワークシートへの記述を見ても、児童全員が具体的な生活場面を記しており、自分の生活に生かそうとする意欲を高めることができた。

今回の研究では、自分の生活と関連付けて道徳的価値を捉えるように話し合う内容を考え、ワークシートに考えを記し、グループから全体と段階を経て話し合うようにしてきた。自分の考えを記したり考えを追記したりする活動は、考えた道徳的価値を振り返る際の重要な材料となった。話し合いの形態については、少人数で話し合うことで考えを持つ必要性が生まれ、話し合いに臨む態度が能動的になっていくことを実感した。これからは、授業で扱う資料によって形態を変えながら児童にとってより対話的な学びとなる話し合い活動となり、道徳的価値の理解が深まる活動となるように工夫していきたい。話し合う内容を資料から離れたところに位置付けることは、児童はより自分事として道徳的価値を捉え、互いに認め合いながら実践意欲を高めていた。今後も扱う内容項目や資料に合わせて話し合う内容を考慮し、児童の道徳的実践意欲が高まる効果的な話し合いができるように努めたい。